

中心図書館名：中央図書館

区分	評価指標	平成21年度	平成22年度	対前年度比	図書館運営全体			
図書館運営	基本的サービス				自己評価		外部評価	
	資料購入費：決算数値(千円)	46,236	44,871	3.0%減	・資料購入費が約3%減少したが、毎週1回選書会議を開催し、市民ニーズを基本にした選書を心がけるとともに、「谷川・良寛文庫」「健康・医療情報コーナー」を新設し、「ビジネス支援コーナー」を一新するなど、より利用しやすい配架に努めた。 ・貸出冊数が減ったのは、オンライン化により他館の利便性が向上したためと考えられる。 ・新規以上に登録者数が増加しているのは、非オンライン館のカードを持っていた利用者がオンライン化前に中央図書館で新カードへの切り替え(再発行扱い)を行ったことが考えられる。そのため、平成22年度の各区中心館の登録者数が減っている。利用者獲得のための取組を検討していく必要があると考える。	○自己評価の内容は妥当と評価します。 ○限られた予算の中での資料選定を、頑張っていると評価します。 ○学問の進歩が速い分野は、継続した資料の更新を実施して欲しい。 ○ブックスタートの場で、貸出カードが作れるとよいと思います。 ○学校図書館・保育園・幼稚園で、貸出カードが作れるとよいと思います。 ○市民に寄贈りリサイクル本の提供を呼びかるとよいと思います。 ○「質」の向上を目指して欲しい。 ○入館者数を指標に入れて欲しい。		
	蔵書冊数(冊)	340,589	372,746	9.4%増				
	貸出冊数(点)	1,434,009	1,430,674	0.2%減				
	登録者数(人)	51,320	60,114	17.1%増				
	(内新規登録者数)	9,500	8,071	15.0%減				
区分	評価指標	平成21年度	目標値(平成22年度)	平成22年度	評点	評価(次年度への展開)		
施策・事業	課題解決型図書館					自己評価	外部評価	
	レファレンス件数(件)	4,121	4,100	前年度並み	4,124	3	・全ての項目で、目標値を上回った。特にレファレンスやビジネス支援には重点を置いて取り組んだ成果が現れたと評価できる。また、資料の予約が市民に定着するとともに、ホームページからの予約・リクエストが多く利用されており、アクセス件数が増加した。	○目標を達成でき、生活課題解決のための情報提供など、評価します。 ○課題解決のため、取り組みの充実をお願いします。 ○ホームページを見やすく、使いやすくなるよう努力して欲しい。 ○レファレンスの内容を分析し、参考例をチラシに作成して欲しい。
	個人予約件数(件)	128,207	128,200	前年度並み	143,249	4		
	ビジネス支援サービス相談受付件数(件)	319	270	教育ビジョン	330	4		
	ホームページアクセス件数(件)	1,449,227	1,450,000	前年度並み	1,657,851	4		
	分権型図書館						自己評価	外部評価
	郷土・行政資料の蔵書冊数(冊)	30,690	30,700	前年度並み	33,419	4	・地域資料や新潟ゆかりの文化人に焦点を当てた展示・講座を開催したが、資料の貸出冊数は前年度に比べ18%減少した。特に歴史・人物の資料貸出が減っており、平成21年の「天地人」による利用が突出していたことが影響しているものと考えられる。	○蔵書冊数の増加は評価します。 ○展示・講座の開催を、貸出冊数の増加に繋げてほしい。 ○新潟市の事業を紹介するコーナーを設置して欲しい。 ○専門書が多いので、貸出冊数は気にしなくてよいと思います。
	郷土・行政資料の貸出冊数(冊)	9,899	9,900	前年度並み	8,347	2		
	学・社・民融合型図書館						自己評価	外部評価
	児童書の貸出冊数(冊)	256,906	271,000	5%アップ	262,309	2	・平成22年3月に「新潟市子ども読書活動推進計画」を策定し、全市を上げて取り組むこととしたため、児童書等の目標値を5%増としたが、児童書の貸出冊数は2%の増加にとどまり、目標値に達しなかった。児童数は年々減少しており、目標値を再検討することも必要と考えている。 ・「新潟市子ども読書活動推進計画」に基づく様々な事業を実施するとともに、学校への支援についてPRに努めたことにより、事業参加者数・職場体験受入人数・派遣職員数が増加した。	○児童数の減少でも、貸出冊数が2%増加したことは評価します。 ○事業参加者数など、数値が増加した取組は評価します。 ○子どもたちの読書意欲を高めるための活動を推進して欲しい。 ○ブックスタートに期待しています。 ○小学校との連携を強化してほしい。 ○中学生の貸出冊数の増加を期待するのは、難しい。
	小中学生への貸出冊数(冊)	130,843	137,500	5%アップ	132,436	2		
	子ども・親子対象事業の参加者数(人)	6,198	6,200	前年度並み	6,585	4		
	職場体験受入人数(人)	37	40	前年度並み	71	4		
	講師等としての派遣職員数(人)	11	10	前年度並み	35	4		
	パートナーシップ型図書館						自己評価	外部評価
	図書館事業のボランティア活動者数(人)	315	320	前年度並み	348	4	・対面朗読等協力者養成講座や、読み聞かせボランティアのステップアップ講座など、ボランティアの育成に努めるとともに、ボランティア団体等との共催事業を積極的に実施した。 ・ボランティア団体交流会の参加者が増加したのは、中央図書館友の会が既存のボランティア団体だけではなく、市民に広く呼びかけたためである。また、読み聞かせボランティアの交流会も引き続き実施した。 ・利用者懇談会は、実施内容を検討できなかったため実施しなかった。	○ボランティアの育成、ボランティア団体等との共催は評価します。 ○ボランティア団体が多いので、交流会の開催内容を工夫して欲しい。 ○利用者懇談会を実施してほしい。 ○利用者懇談会の開催は難しい面があるので、利用者評価(アンケート)を実施して欲しい。
	ボランティア団体交流会参加者数(人)	68	70	前年度並み	87	4		
	利用者懇談会の開催回数(回)	—	—	新規	—	—		
	共催事業の実施回数(回)	27	30	前年度並み	32	3		
	運営(職員)						自己評価	外部評価
研修参加職員数(人)	200	200	組織目標	185	2	・レファレンス研修や、初任者研修、機器の操作研修等様々な研修を実施するとともに、県立図書館や市外への研修派遣など、職員の資質向上に努めているが、平成22年度はオンライン化に伴う操作研修を中心に実施したため参加者数が目標値に達しなかった。 ※各館からの参加者を含めた目標値のため、全市立図書館の数値と同じになっている。	○職員の資質向上のため、質の高い研修を実施して欲しい。 ○どこかで研修報告をして欲しい。	

※施策・事業の評点は1:目標値を大きく下回った 2:目標値を少し下回った 3:目標どおり達成 4:目標値を上回って達成  
 ※教育ビジョン:市教育委員会が策定した指針 組織目標:新潟市が実施している組織ごとの行政評価